

2025年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
220212028	公衆衛生学Ⅰ Public HealthⅠ	岡田 瑞恵			2	必修	1後期

科目の概要

建学の精神のもと、社会人基礎力・pisa型学力を実践し、社会で自立し生きるために必要なスキルやリテラシー力を獲得して、人々の健康面を支援できるよう専門的知識と技能を身に付けた管理栄養士の育成を目指す（DP 2・3・4・5・7）。公衆衛生学Ⅰで学ぶ内容は、私たちの健康において将来にわたる多くの課題が含まれている。このような健康上の課題に対して、社会に生きる我々が自ら考え、解決に向けて取り組んでいくことが大変重要である。そのために、人々の健康維持・増進、疾病予防を目的に、人々の健康を評価するための指標、少子化と高齢化、生活習慣病の現状と予防、環境保健を理解する。

学修内容	到達目標
① 健康指標について学ぶ。 ② 日本人の死因順位と年次変動をもとにどのような要因があるかを学ぶ。 ③ 集団の健康レベルを測定するための疫学手法および適用される計算法について学ぶ。 ④ 疾病の予防について、予防手段の適用段階を学修する。 ⑤ 健康に影響を及ぼす環境要因について学修する。	① 様々な健康指標について理解し、説明することができる。 ② 日本人の死因順位とその背景について、調べ考察することができる。 ③ 様々な疫学の手法を理解するとともに計算法を活用することができる。 ④ 予防医学における予防手段に応じた対策の具体例を提案することができる。 ⑤ 地球環境にも視野を広げ理解し、我々の健康維持に影響を及ぼす課題を抽出できる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例
前に踏み出す力	主体性	講義の中の不明なキーワードや事柄について、テキスト、文献によって必要な多くの知識を理解し、得られた情報を整理できる。また、知識をふまえ、自ら考え表現する等、ICTによる予習・復習を通して主体的に総合的に学修することができる。
	働きかけ力	
	実行力	図書館や自宅学習において、課題に対する適切な文献、書籍、資料を検索することができる。主体的な予習・復習により得られた知識を整理し、自己の課題解決に向け、専門性を高めることができる。
考え抜く力	課題発見力	疾病対策に対する課題を発見し、具体的対策を明確にすることができる。疑問点や理解不足の内容について、調べた内容をまとめることができる。
	計画力	
	創造力	自己の考えを表現するために、どのような言葉を用いることが効果的に相手に伝えられるかを考えることができる。このことは、チームで働く力（協働力）にも通じる。
チームで働く力	発信力	健康維持と健康増進についての情報を発信することができる。ディスカッションにおいて、自分の意見を発信することができる。
	傾聴力	他者の意見を傾聴し、他者との意見の違いを認識するとともに異なる意見に触れ、物事を多面的に考える力を身につける。
	柔軟性	チームで働く調整力を身につけるため、様々な意見を傾聴し、他者の意見と自己の意見とをすり合わせ、結論を導くことができる。
	状況把握力	
	規律性	講義の時間は個人のみが所有する時間ではないことを理解し、全体の講義に支障をきたす行動を慎むことができる。
	ストレスコントロール力	一つの課題に対し、様々な意見が当然ある。自己の発した意見を他者に否定的に捉えられても、一つの意見に対するものと受け止め、共通の課題を解決するための討論であることを認識することができる。

テキスト及び参考文献

教科書：シンプル衛生公衆衛生学2025 辻 一郎監修 南江堂
 (2025. 3月出版)
 参考書：Active Aging 健康管理学 ～QOLの向上をめざして～
 岡田悦政 編著 八千代出版(2025. 3月出版)、国民衛生の動向、 国民福祉の動向、厚生労働白書などの各年度版

他科目との関連、資格との関連

「公衆衛生学Ⅰ」は、専門基礎分野の社会・環境と健康に位置しており、「健康管理概論」「公衆衛生学Ⅱ」および「公衆衛生学実習」と関連する科目である。健康管理概論の学修を発展させた科目でもあり、また、公衆衛生学Ⅱ、公衆衛生学実習の基礎でもある。
 資格との関連：管理栄養士、栄養士、食品衛生管理者・監視員、栄養教諭

学修上の助言	受講生とのルール
・日々のニュースにアンテナを張って下さい。公衆衛生学上の課題が必ずあります。 ・テキストという狭い知識だけでなく、ニュース、新聞、文献、ICTの活用等により情報源を広く持つと同時に、エビデンスに基づいた情報源の利用を行う。 ・主体的な学びを実践して下さい。	・大切な評価対象である提出物を必ず提出すること。 ・講義の中で、不明なキーワードや事柄を必ずノートに記し、調べる習慣を身に付ける。 ・googleクラスルームを通して、授業資料、予習・復習シート等の配布を行う。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標				各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	70	①	✓			・授業で学習した内容の理解度や主体的な学びを確認するため、記述式・論述式の問題を中心に出题する。 知識の獲得(25%/70):疫学手法の理解・疾病の背景・予防、健康管理の理解。 知識の活用(25%/70):疫学の方法が実践できる（計算法の活用）。予防手段の活用例を挙げることができる。 課題解決(50%/70):筆記試験において、現状を把握し課題の解決策を述べる事が出来る。 ・次の到達レベルをもって合格の基準とする。 S:健康の概念を理解した上で、疫学的手法の種類、疾病予防と健康管理、代表的な疾病の基本的な原因や疾病時における生体内の反応や疾病へ進行する過程が理解できる。また、環境と健康の繋がりを理解し、示すことができる。出題の90%の正解とする。 A:健康の概念、疫学的手法が理解でき、疾病予防と健康管理、代表的な疾病の基本的な原因や仕組みが理解できる。疾病時における生体内の反応や疾病へ進行する過程が説明できる。出題の80%の正解とする。 B:健康の概念、疾病予防と健康管理、代表的な疾病の基本的な原因や疾病時における生体内の反応が説明できる。出題の70%の正解とする。 C:疾病予防と健康管理について理解できる。出題の60%の正解とする。 F:Cのレベルに達していない。
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
				⑤	✓			
	平常評価	小テスト	20	①	✓			中間テストを行い、前半の学修到達度を評価する。 知識の獲得（75%/20）:授業前半の内容についての理解。 知識の活用（25%/20）:疫学的手法および計算方法の活用。 評価は以下の基準にて行う。 S:90～100%到達度、A:80～89%の到達度、B:70～79%の到達度、C:60～69%の到達度。F:Cに到達していない。
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
				⑤	✓			
		レポート	0	①				
				②				
				③				
				④				
				⑤				
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	0	①				
				②				
				③				
				④				
				⑤				
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓			（主体性）自ら進んで予習や復習をし、公衆衛生における予防医学について理解する。 （実行力）図書館等で文献や関連雑誌を見つけて読むことができる。 （課題発見力）疾病予防に対する課題を見出すことができる。 （創造力）健康維持のための取り組みについて考え、創造することができる。 （発信力）健康維持と健康増進についての情報を発信することができる。 （傾聴力）講義を集中して受講し、他者の意見を傾聴し、自己の意見を述べる事ができる。 （規律性）講義に関係の無い逸脱した行動を慎み、意欲的に参加することができる。	
			②	✓				
			③	✓				
			④	✓				
			⑤	✓				
総合評価割合			100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
社会が抱える課題として、少子化と高齢化、生活習慣病の現状と予防、環境衛生、労働衛生、および保健行政等の現状を理解し、説明することができる。さらに、健康増進の方法が具体的に説明できる。 ・次の到達レベルをもってSおよびAの基準とする。 S:健康の概念を理解した上で、疫学的手法の種類、疾病予防と健康管理、代表的な疾病の基本的な原因や疾病時における生体内の反応や疾病へ進行する過程が理解できる。また、環境と健康の繋がりを理解し、示すことができる。出題の90%を正解とする。 A:健康の概念、疫学的手法が理解でき、疾病予防と健康管理、代表的な疾病の基本的な原因や仕組みが理解できる。疾病時における生体内の反応や疾病へ進行する過程が説明できる。出題の80%を正解とする。 上記の基準に従い、筆記試験・課題等を総合的に評価し、特に優れているものをS(秀)、優れているものをA(優)とする。	・次の到達レベルをもって、BおよびCの基準とする。 B:健康の概念、疾病予防と健康管理、代表的な疾病の基本的な原因や疾病時における生体内の反応が説明できる。出題の70%を正解とする。 C:疾病予防と健康管理について理解できる。出題の60%を正解とする。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力名
1	オリエンテーション ・公衆衛生学とは何かを学ぶ。 ・健康の定義・健康問題の歴史と活動を学ぶ。	講義、グループディスカッション・発表 googleクラスルームを通して、授業資料、予習・復習シートの配布を行う。	WHOの健康の定義が説明できる。	(予習) シラバスに目を通しておく。授業内容のテキスト第1章p. 1～15を熟読しておく。 (復習) 授業において、不明なキーワード、事柄について調べておく。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性
2	保健統計 ・健康の測定と指標、人口統計について学ぶ。 ・公衆衛生の歴史と感染症対策について学ぶ。	講義、グループディスカッション・発表、本日の復習(思い出し法) googleクラスルームを通して、授業資料、予習・復習シートの配布を行う。	健康の測定と指標について説明できる。 予防接種や感染症対策について分類して説明できる。	(予習) テキスト第2章p. 19～30を熟読しておく。 (復習) 授業において、不明なキーワード、事柄について調べ、予習・復習シート(PCR)にて学修・提出する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性
3	疫学 (1) ・疫学調査の手順について学ぶ。	講義、本日の復習(思い出し法) googleクラスルームを通して、授業資料、予習・復習シートの配布を行う。	疫学調査の基本的な手順について説明できる。	(予習) テキスト第3章p. 33～42まで、熟読しておく。 (復習) 授業において、不明なキーワード、事柄について調べておく。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性
4	疫学 (2) ・疫学研究の分類と方法について学ぶ。	講義、演習、本日の復習(思い出し法) googleクラスルームを通して、授業資料、予習・復習シートの配布を行う。	疫学手法の種類を挙げ、使用される計算法を実践できる。	(予習) テキスト第3章p. 42～53「疫学の方法」から章の最後まで熟読しておく。 (復習) 授業において、不明なキーワード、事柄について調べておく。 予習・復習シート(PCR)にて学修・提出する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性
5	疾病予防と健康管理 (1) ・疾病のリスクと予防医学について学ぶ。	講義、グループディスカッション・発表、本日の復習(思い出し法) googleクラスルームを通して、授業資料、予習・復習シートの配布を行う。	疾病のリスクと予防医学について理解する。 一次予防、二次予防、三次予防の段階を説明でき、それぞれの段階の適用例を挙げる事が出来る。	(予習) テキストの第4章のp. 55～65までを熟読しておく。 (復習) 授業において、不明なキーワード、事柄について調べておく。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性
6	疾病予防と健康管理 (2) ・健康管理と健康増進について学ぶ。	講義、グループディスカッション・発表、本日の復習(思い出し法) googleクラスルームを通して、授業資料、予習・復習シートの配布を行う。	健康管理と健康増進のポイントを説明する事ができる。	(予習) テキストの第4章p. 65～78の「健康増進」から「SDH」までを熟読しておく。 (復習) 授業において、不明なキーワード、事柄について調べておく。 予習・復習シート(PCR)にて学修する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性
7	疾病予防と健康管理 (3) ・健康日本21の目標と課題について学ぶ。	講義、グループディスカッション・発表、本日の復習(思い出し法) googleクラスルームを通して、授業資料、予習・復習シートの配布を行う。	健康日本21(第3次)の概念図について説明できる。	(予習) テキスト第4章p. 79～83「健康日本21」から、この章の最後まで熟読しておく。 (復習) 授業において、不明なキーワード、事柄について調べておく。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性
8	主な疾病の予防 (1) ・感染症の成り立ちと予防について学ぶ。 ・中間テストの実施	講義、グループディスカッション・発表 googleクラスルームを通して、授業資料、予習・復習シートの配布を行う。	感染症の成り立ちと予防について説明できる。	(予習) テキスト第5章p. 85～102までを熟読しておく。 (復習) 授業において、不明なキーワード、事柄について調べておく。 予習・復習シート(PCR)にて学修する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力名
9	主な疾病の予防 (2) ・循環器系疾病と予防について学ぶ。 ・中間テストのフィードバックを行う。	講義、グループディスカッション・発表 googleクラスルームを通して、授業資料、予習・復習シートの配布を行う。	循環器疾患の概要、予防について説明できる。	(予習) テキスト第5章p. 102「循環器系の疾患の予防」からp. 114まで熟読しておく。 (復習) 授業において、不明なキーワード、事柄について調べておく。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性
10	主な疾病の予防 (3) ・メタボリックシンドロームと予防について学ぶ。	講義、グループディスカッション・発表、本日の復習(思い出し法) googleクラスルームを通して、授業資料、予習・復習シートの配布を行う。	メタボリックシンドロームの診断基準と予防について説明できる。	(予習) テキスト第5章p. 114～124「糖尿病・脂質異常症・痛風・メタボリックシンドローム」までを熟読しておく。 (復習) 授業において、不明なキーワード、事柄について調べておく。 予習・復習シート (PCR) にて学修する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性
11	主な疾病の予防 (4) ・がん、腎疾患、アレルギーの予防について学ぶ。	講義、グループディスカッション・発表、本日の復習(思い出し法) googleクラスルームを通して、授業資料、予習・復習シートの配布を行う	がん、腎疾患、アレルギーの機序と予防を理解し、説明できる。	(予習) テキスト第5章p. 124～136までを熟読しておく。 (復習) 授業において、不明なキーワード、事柄について調べておく。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性
12	環境保健 (1) ・人間の環境、環境汚染から地球環境問題について学ぶ。	講義、グループディスカッション・発表、本日の復習(思い出し法) googleクラスルームを通して、授業資料、予習・復習シートの配布を行う。	問題となっている国際的な環境汚染について、説明できる。 ディスカッションにおいて自分の意見を発言することができる。	(予習) テキスト第6章p. 142～146の最初から「生活環境の管理」までを熟読しておく。 (復習) 授業において、不明なキーワード、事柄について調べておく。 予習・復習シート (PCR) にて学修・提出する。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
13	環境保健 (2) ・環境の把握とその評価について学ぶ。	講義、グループディスカッション・発表、本日の復習(思い出し法) googleクラスルームを通して、授業資料、予習・復習シートの配布を行う。	環境の評価法について説明できる。	(予習) テキスト第6章p. 146～163「環境の把握とその評価・対策」～「化学的環境要因」までを熟読しておく。 (復習) 授業において、不明なキーワード、事柄について調べておく。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性
14	環境保健 (3) ・感染症の発生と環境要因(水質汚濁まで)について学ぶ。	講義、グループディスカッション・発表、本日の復習(思い出し法) googleクラスルームを通して、授業資料の配布を行う。	感染症成立の3要因が説明できる。	(予習) テキストの授業範囲に目を通し、概要を掴んでおく。 (復習) 授業において、不明なキーワード、事柄について調べておくとともに、授業内容のテキストp. 163～173「生物的環境要因」「最近の環境問題」までを熟読しておく。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力
15	環境保健 (4) ・廃棄物、食品の保健機能、公害と環境問題・国際的取り組みについて学ぶ。	講義、グループディスカッション・発表 googleクラスルームを通して、授業資料、予習・復習シートの配布を行う。	環境管理の必要性、「なぜ、持続可能性が求められているのか」について述べるができる。	(予習) テキスト第6章p. 184～191, p. 200「公害と環境問題」から章の最後までを熟読しておく。 (復習) 授業において、不明なキーワード、事柄について調べておく。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力